「主体的・対話的で深い学びに向かうための授業改善」実践事例

第6学年

社会科　町人の文化と新しい学問
「国学の発展と新しい時代への動き」

【ねらい】

　社会の変化を幕府や藩の力の衰えと関連付けて考え、政治が行き詰まり、百姓や町人とは別に身分上厳しく差別されてきた人々をはじめ、様々な立場の人々による改革を求める動きが出てきたことを理解する。

【人権・同和教育の視点】

　渋染一揆を行った人々の思いや願いを考えることを通して、厳しい差別に苦しめられてきた人々が差別解消に向けて決死の思いで行動したことを共感的に理解し、自らの差別解消への意欲を高める。

1　子どもが見通しをもち、自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

（1）系統的な指導

本時までに、厳しく差別されてきた人々が、それぞれの時代において、厳しい差別を受けながらも、商業や文化の発展に寄与したことを系統立てて指導した。

室町時代
京都の龍安寺の石庭づくりに、厳しく差別されてきた人々が寄与した。

江戸時代
百姓や町人とは別に厳しく差別されてきた身分の人が、農業や手工業を営み、芸能で人を楽しませ、治安などを担って、社会を支えていた。

江戸時代後期
厳しく差別されていた人々が、すぐれた解剖の技術を生かして、医学を支えた。

江戸時代後期
渋染一揆（本時）

1　子どもが見通しをもち、自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

（2）興味・関心を高める導入の工夫（資料の活用①）

本時は、まず新しい学問の発展に、厳しく差別されてきた人々が寄与していたことを再確認すること、打ちこわしや一揆が増えていった時代背景を理解することを通して、本時の学習に対する見通しをもたせた。

資料①
「打ちこわしの様子」

資料②
「百姓一揆の様子」

資料③
「増える百姓一揆と
打ちこわしグラフ」

ききんが起きると、数が一気に増えています。

年々打ちこわしや百姓一揆が増えています。

幕府に抑える力がなくなってきているのかな・・・。

1　子どもが見通しをもち、自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

（3）児童が自身の考えを明確にもてるための工夫（資料の活用）

教科書のコラムや他の資料を活用して、渋染一揆が差別の撤廃を求めて、人々が自ら立ち上がったものであることを理解させた。そして、どのような思いで人々が参加したのかを個々で考える時間を設定し、自分の思いや考えをもてるようにした。

コラム
「百姓一揆・打ちこわし」

・53か村から千数百人もあつまったんだ。それだけ人々が自分たちの生活を変えたいと思っていたんだな。

倹約令②

1　衣類は、無地の渋か藍で染めたものにしなさい。新しく着物は作らないで、今持っているものを使うようにしなさい。新しく着物を作るときは、藍や渋で染めたものにしなさい。

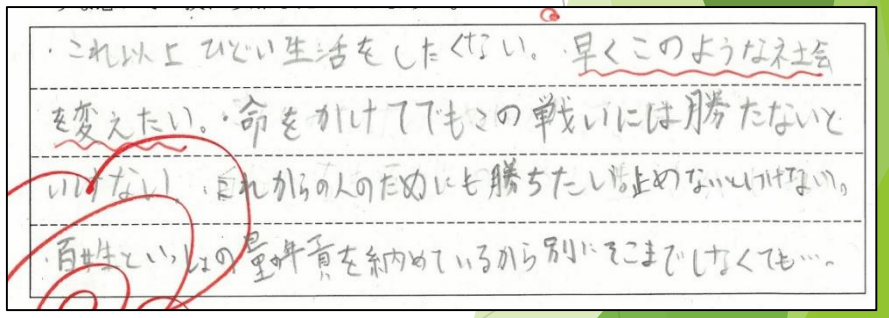
1　雨のときに近所や村へ行くときには、はだしでは迷惑をかけるので、栗のげたを使ってもよい。しかし、百姓に出会ったら、はだしになっておじきをしなさい。

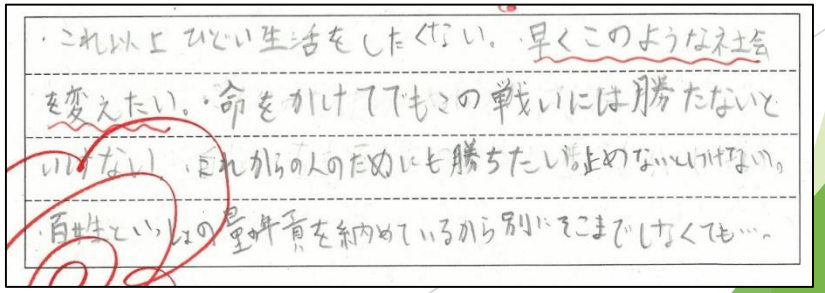
1　年貢をきちんと納めている家の女や子どもは、特別に柄が竹でできている白色の傘を使ってもよい。

2　自他を大切にし、学び合う活動（ハイリンタイム）の充実

（1）ワークシートを基にした意見交換

　百姓と分け隔てる命令を出され、身分上厳しく差別されてきた人々が、どのような思いで一揆に参加したのかをワークシートに書かせた。そして、それを基にした話合いを通して、多様な考えに触れさせながら、不合理な差別に対して、自分たちの権利を守るために行動した人々の決死の思いを共感的に理解させた。



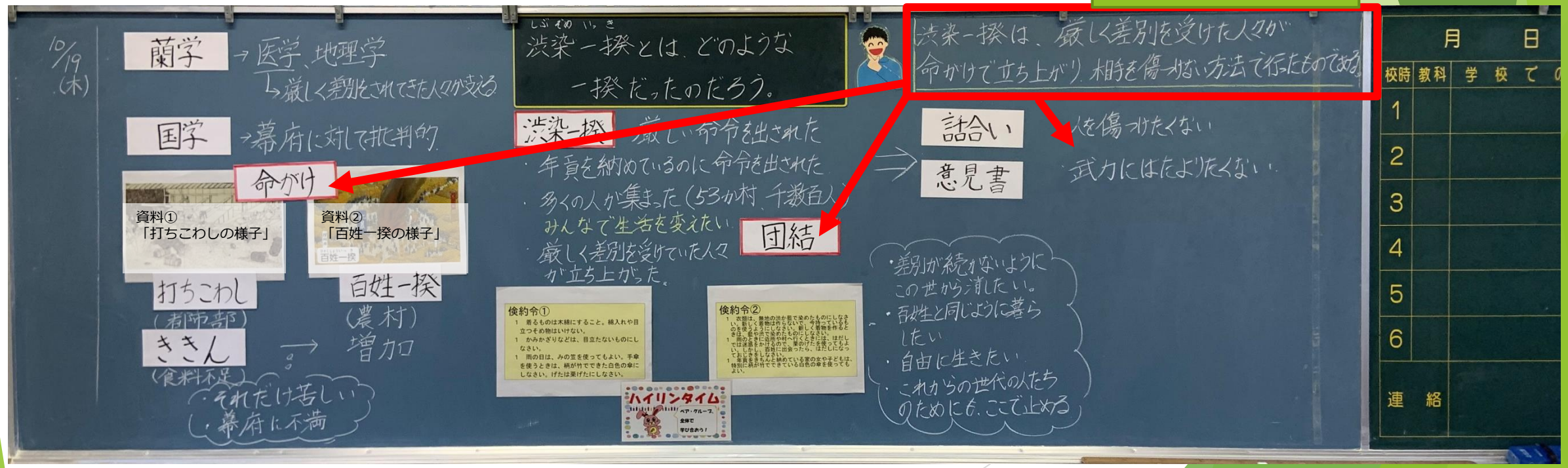


3　学びの成果と自己の成長を実感し、次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

(1) 振り返りの工夫

自分たちの学びを実感するとともに、筋道を立てて考え、表現する力を高めるために、キーワードを基に、自分たちの言葉でまとめを考えさせた。

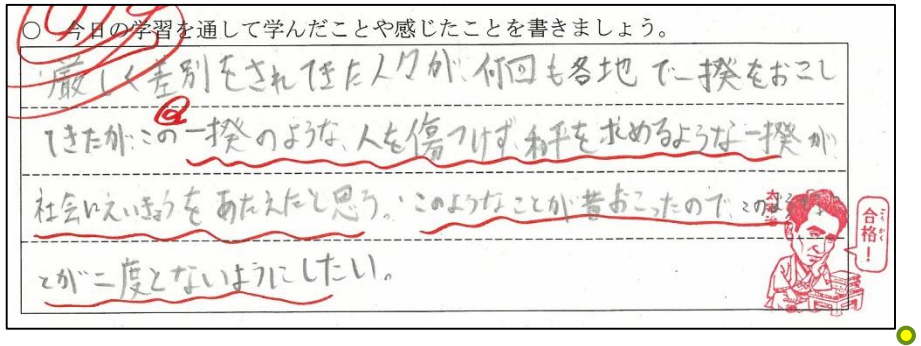
本時のまとめ



3　学びの成果と自己の成長を実感し、次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

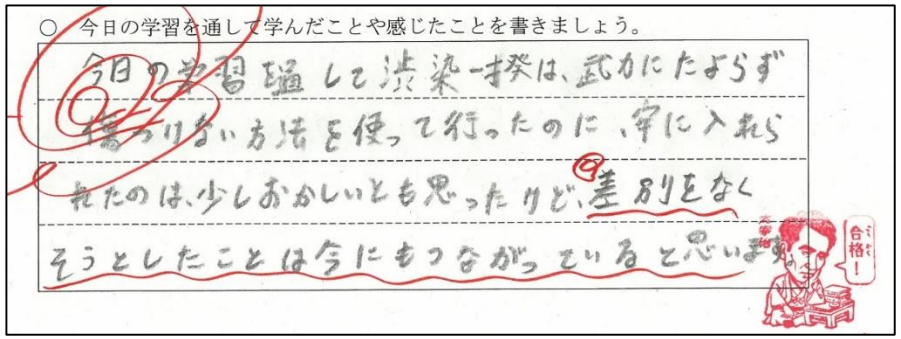
（2）個々の振り返りを共有・深化

個々の振り返りを全体で共有し、身分上厳しく差別されてきた人々をはじめ、様々な立場の人々による改革を求める動きが出てきたことを理解させた。


○　今日の学習を通して学んだことや感じたことを書きましょう。

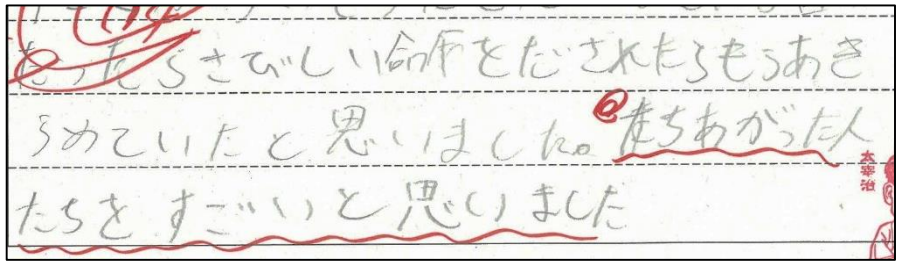
厳しく差別をされてきた人々が、何回も各地で一揆をおこしてきたが、この一揆のような、人を傷つけず和平を求めるような一揆が社会いいきょうをあたえたと思う。このようなことが昔おこったのでこのことが二度とないようにしたい。

合格！


○　今日の学習を通して学んだことや感じたことを書きましょう。

今日の学習通して渋染一揆は、武力にたよらず傷つけない方法を使って行ったのに、牢に入れられたのは、少しおかしいとも思ったりど、差別をなくそうとしたことは今にもつながっていると思います。

合格！


もしもらさびしい命令をだされたらもうあきらめていたと思いました。立ちあがった人たちをすごいと思いました

・渋染一揆の社会的価値への気付き
・差別を許さない、二度と起こさないとする態度の醸成

成果

○　系統的なカリキュラムの中で、時代背景を押さえながら指導することで、児童は、学習の見通しをもちながら、人々が社会の流れの中で、自ら差別をなくそうと団結して立ち上がったことの意義にしっかりと触れさせることができた。

○　資料を基に、渋染一揆についての協働的な対話を通して、多角的・多面的に考えさせることで、児童は差別の不合理さを実感し、差別を許さないとする意識を高めることができた。

課題

○　歴史的事実や差別の実態の深刻さに触れるだけでなく、差別と闘い、乗り越えてきた人々の思いや生き方を学ぶことができるように、教材や教具、発問を今後も一層工夫していく必要がある。